

2017年6月14日

関係各位

会社名 ケアパートナー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 白井 孝和

第2回ケアパートナー川柳の優秀作品の発表について

ケアパートナー株式会社（本社：東京都港区 代表取締役社長：白井孝和）は、昨年に続き川柳コンテスト「第2回ケアパートナー川柳」を実施しました。施設ご利用の皆さまから「家族と仲間」をテーマに募集した川柳は、素敵な夫婦仲、お孫さんとの幸せ、「デイとも」※との心の交流などが表現されています。今回は応募総数 798 作品の中から、「最優秀賞」3 作品、「優秀賞」12 作品、「ハッピーで賞」「お茶目で賞」「1枚上手で賞」各1作品、計18作品を選出しましたのでお知らせします。

※“デイとも”とは、「第1回川柳コンテスト」の作品にみられた言葉で、「デイサービス友達」の略。

1. ケアパートナー川柳とは

ケアパートナーでは、心身機能の向上やお客様の自立を支援するために、様々なゲーム・手工芸・カラオケなど、遊び感覚で参加できるレクリエーションを採用しています。「ケアパートナー川柳」は、そのレクリエーションの一環として実施されました。

今回選出された18作品は、水分補給・代謝促進のために施設利用者様にお配りしている、ケアパートナーオリジナル麦茶『元気茶』と、美味しい軟水『元気すい水』のパッケージに印字されます。

第2回ケアパートナー川柳概要

テーマ：家族と仲間
 参加者：ケアパートナー施設利用者
 募集期間：2017年1月16日～2月10日
 主催：ケアパートナー株式会社
 (<https://www.care-partner.com/>)
 審査員：やすみりえ氏（川柳作家）
 羽吹さゆり氏（介護講師）
 ケアパートナー株式会社



「元気茶」と「元気すい水」

2. 応募状況

	施設利用者数	応募作品数	一次審査通過作品数	応募者様年齢
第1回（2015年度）	9,886	701	71	54～95歳
第2回（2016年度）	10,482	798	67	52～98歳

3. 受賞作品について

<年代/性別> <センター名>

最優秀賞

「幸（しあわせ）は 今日もあえるか ケアの友」 80代/女性 西新井

《講評》友人に対し、「今日もあえるか」という感情を素直に表現している点が、家族・友人というテーマにあっていると思います。一瞬一瞬の幸せを上手に表現しているとても前向きな句です。“ケアの友”の「ケア」がケアパートナーのことを指しているのであれば、社員一同報われる思いです。

「食台を 二つ並べて 皆揃う」 80代/女性 みなと

《講評》普段は1つのテーブルを2つ並べる必要があるという場面に、特別感や賑やかさを連想します。大家族が一般的だった日本の昔の家庭をイメージさせるような、ノスタルジーを感じさせる作品です。1つから2つという数字を使い、日常から非日常を表現している点が、本作品の魅力を効果的にアップさせています。

「入れ歯とり 顔を見合す じじとばば」 90代/女性 明野

《講評》あえて、『じじとばば』という表現を使っている点に、ご夫婦の深い愛情を感じます。『顔を見合す』ところに、長年連れ添ってきたご夫婦ならではの愛情を感じます。言葉の並べ方が良いため、声に出して読んでみると非常にテンポ良く、味わい深い作品です。

優秀賞(12作品)

「春日和 ひ孫の手を取り 散歩する」 80代/女性 高崎

「孫の名が とっさに言えず あれとこれ」 70代/女性 上尾

「お迎いの イケメン兄さん 待つ娘」 70代/女性 草加

「手をつなぎ 仲よく転び 駄目介護」 80代/男性 船橋

「笑い声 家族輪になり ばばぬきを」 70代/女性 流山

「会いたいよ どの星なのか 合図して」 80代/女性 岡山西

「先立ちし 夫によく似た 横の人」 80代/女性 八王子

「夜こわい 昼スヤスヤの 白髪まで」 90代/男性 大高

「わが家族 こたつで盛土で 移動せず」 80代/女性 久居

「ケアパ行く 娘孝行 皆笑顔」 80代/女性 尾道

「引く足に 笑顔で娘 杖を出す」 90代/女性 賀来

「マスクとる かくれた顔が 美人なり」 80代/男性 森合

ハッピーで賞(1作品)

「傷癒えて 友の笑顔に 迎えられ」 90代/女性 大泉

お茶目で賞(1作品)

「ダーリンと 呼べばだれかと しらん顔」 80代/女性 三重川越

1枚上手で賞(1作品)

「重い腰 ひよいと浮かせる ほめ上手」 90代/男性 佐賀

4. 審査員プロフィール



【やすみ りえ氏】

大学卒業後、本格的に川柳の道へ。恋をテーマにした川柳が幅広い世代から共感を得る。多数の公募川柳の選者・監修を務めるかたわら、全国の子供たちへ「言葉について考えるワークショップ」を開催し、言葉の魅力を伝える活動も。大人を対象とした川柳講座も人気。

東京川柳人協会会員、全日本川柳協会会員、文化庁文化審議会委員も務める。



【羽吹 さゆり氏】

法政大学社会学部卒業。次女を出産後介護業界に入る。訪問介護、グループホーム、居宅介護支援事業所で現場経験を重ねた後、日本医療大学の介護職養成講座等の専任教員に従事する。平成26年学校を退職後、実践的な介護技術研修を行う介護人材育成事業「アモールファティ」を立ち上げる。他にも、シニアへの貢献活動を行う「豊島区中高生快護部」など豊島区子ども地域活動支援事業を企画・運営するなど、幅広い分野で精力的な活動を行う。